

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

習志野市教育委員会

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校第6学年，中学校第3学年

本市の実施状況	実施校数	当日実施した児童生徒数 ※				
		国語A	国語B	算数A 数学A	算数B 数学B	理科
小学校	16校	1,407名	1,409名	1,407名	1,411名	1,413名
中学校	7校	1,343名	1,342名	1,341名	1,341名	1,342名

※ 後日実施した児童生徒の結果は集計値に含まれません。

当日未実施者数…小学校/国語A35名，国語B33名，算数A35名，算数B31名，理科29名
中学校/国語A45名，国語B46名，数学A47名，数学B47名，理科46名

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語，算数・数学，理科)

- ・ 主として「知識」に関する問題 (A)
(身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など)
- ・ 主として「活用」に関する問題 (B)
(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など)

(2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
(学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関すること)
- ・ 学校に対する調査
(学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること)

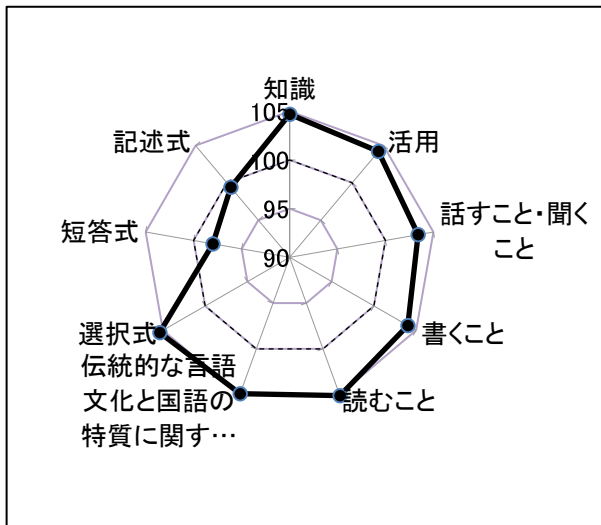
5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校・国語

※習志野市・全国ともに、公立学校の平均正答率です。文部科学省の方針に基づき、習志野市平均正答率は小数点以下を四捨五入、全国平均正答率は小数第1位までの結果を示しています。

	習志野市	全国
国語A	74	70.7
国語B	57	54.7

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



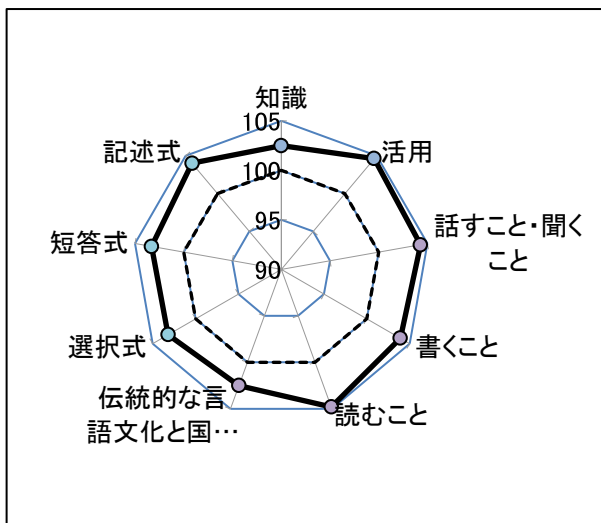
成果 話す・聞く能力が全国平均正答率をやや上回り、改善傾向にあります。この土台となっている力は、話の内容を捉える力の高まりにあると考えられます。課題と関連しますが、「何について書かれているのか」「何が話の中心なのか」等、構成や内容を理解することはできているので、大切な言葉に着目して読み取ったことを表現する力につなげていきたいです。

課題 国語Aでは、文の中における主語と述語の関係などに注意して文を正しく書く問題に課題が見られました。それぞれの文の中の語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているか理解することが重要です。国語Bでは、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる問題と、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題に課題が見られました。つまり、条件に応じて必要な情報を的確に判断し、自分の言葉でまとめ上げる力をつける必要があります。

(2) 中学校・国語

	習志野市	全国
国語A	78	76.1
国語B	64	61.2

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



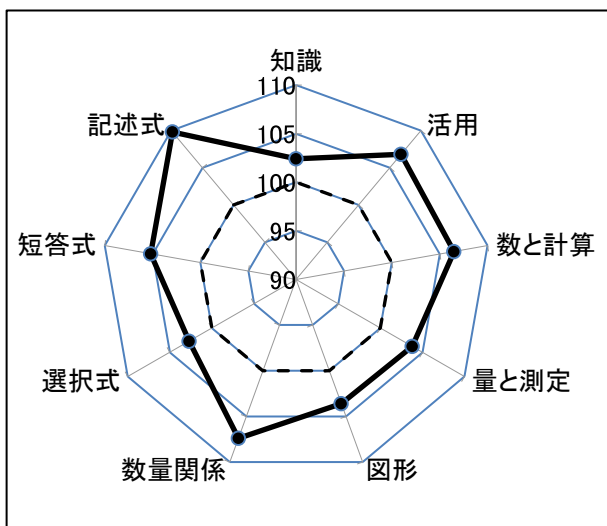
成果 国語Aでは、接続詞の働きについて理解すること、文脈に即して漢字を正しく読むことの正答率が高く、全国平均を上回っています。国語Bでは、質問の意図を捉えること、話の展開を注意して聞き、必要に応じて質問することなど、「話すこと、聞くこと」の領域において高い正答率であることがわかりました。

課題 国語Aでは、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと(特に「せきを切ったように」)の正答率が低く、慣用語やことわざなど言葉の知識が浅いことがわかった。語彙力の向上が課題であり、多くの言葉に触れる機会を増やしていく必要があります。国語Bでは、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることの正答率が低いです。いずれも読み取った内容を自分の中で処理し、活用することに苦手意識をもっているため、資料活用型作文を書くなど情報活用能力を身につける必要があります。

(3) 小学校・算数

	習志野市	全国
算数A	65	63.5
算数B	55	51.5

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



成果 「記述式」(109.8)、「活用」(106.8)、「数と計算」(106.5)「数量関係」(107.4)「短答式」(105.2)が全国を大きく上回りました。特に、「短答式」が昨年より5%上回っています。

算数Bは、全部の問題で全国を上回る正答率でした。

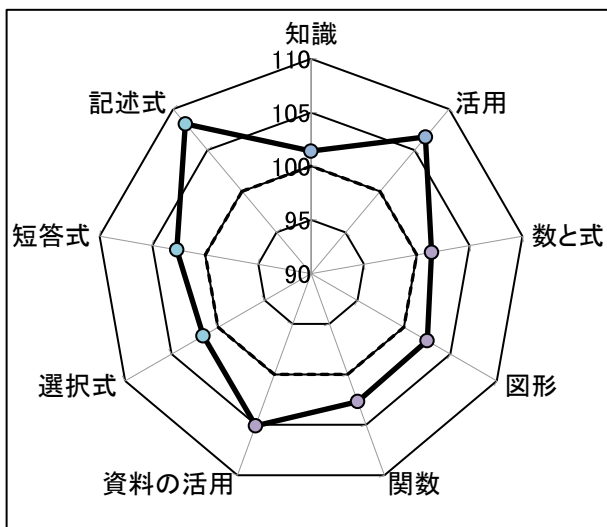
課題 「量と測定」(103.8)は、全国を上回ってはいますが、昨年度(108.3)と比べると全国との差は小さくなっています。「混み具合」の問題で誤答が多く、比の関係の理解について課題があります。また、「選択式」(102.7)では、昨年度より0.5ポイント下がりました。比の関係の問題で誤答しています。単位量の違うものを比べる時の理解について課題があります。

問題(A)の正答率60%(全14問中8問)未満の児童が全体の約40.8%。問題(B)の正答率60%(全11問中6問)未満の児童は約56.5%でした。今後も知識・技能などの基礎的な面でも積み重ねが必要です。

(4) 中学校・数学

	習志野市	全国
数学A	67	66.1
数学B	50	46.9

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



成果 「活用」に関する問題は、H28(104.8)、H29(106.0)、H30(106.6)と全国を大きく上回る傾向が見られています。数学的に説明したり、筋道を立てて考え、証明したりする「記述式」の正答率は全国を上回っています。

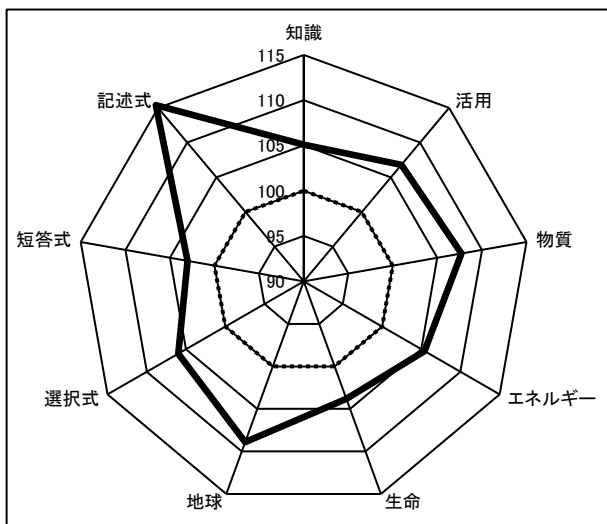
課題 「全国平均と市の平均との差が少しずつ縮まってきています。この3年で「数と式」が3ポイント、「図形」が2.2ポイント、「関数」が1.9ポイント下がっています。問題別にみると、基本的な問題での誤答が多く、「知識に関する問題」が昨年度より、2.3ポイント下回っています。「短答式」では、「等式の変形」「代入」の問題が全国を下回っています。また、文章問題で注意して解かなければいけない問題での誤答が全国を下回っています。

問題(A)の正答率60%(全36問中20問)未満の生徒が全体の約31.6%、問題(B)の正答率60%(全14問中8問)未満の生徒は約62.8%でした。習熟の場面を設け、基礎基本を身につけさせる必要があります。

(5) 小学校・理科

	習志野市	全国
理科	64	60.3

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



成果 どの区分においても全国平均正答率を上回っています。問題数16のうち、15で上回り、6つの設問で5ポイント以上上回っていました。前回(平成27年度)と比べると、主として「知識」に関する問題は18.5ポイント、観察・実験の技能は18.1ポイントと大幅に上回っています。

課題 前回と比べると記述式の問題の平均正答率は-18.9ポイントと大幅に下回っています。

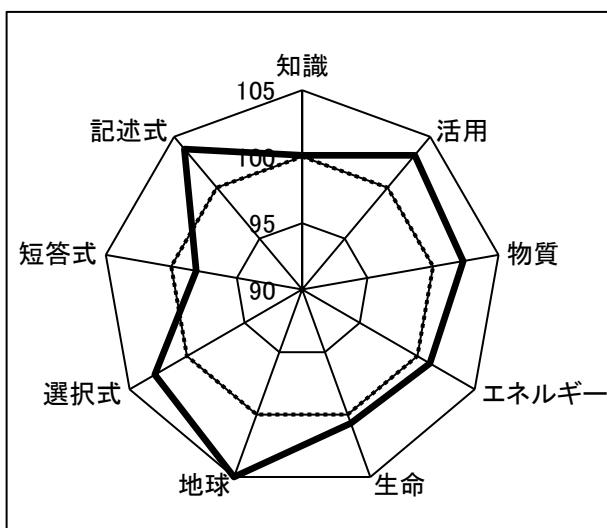
腕を曲げるときの骨と筋肉の関係については、「筋肉が縮む」ということの意味を理解することが課題です。検流計を使う実験では、正しい針の位置について理解していますが、図のみに注目してしまい、問われていることをよく読んでいなかったために間違えたと思われる。

メスシリンダーの水溶液の量を重さと取り違えていました。一般的に、図や文章が複雑で間違えている児童が多い。読解力や思考力が大きく影響しています。

(6) 中学校・数学

	習志野市	全国
理科	68	66.1

※チャート図は、全国平均を100としたときの本市の相対値を示しています。



成果 「知識」は全国と同じでしたが、「活用」は全国を上回りました。

分野別では化学及び生物は全国と同じでしたが、物理及び地学は全国を上回っています。観点別では観察実験の技能及び知識理解は全国と同じでしたが、関心意欲態度及び科学的思考は全国を上回りました。

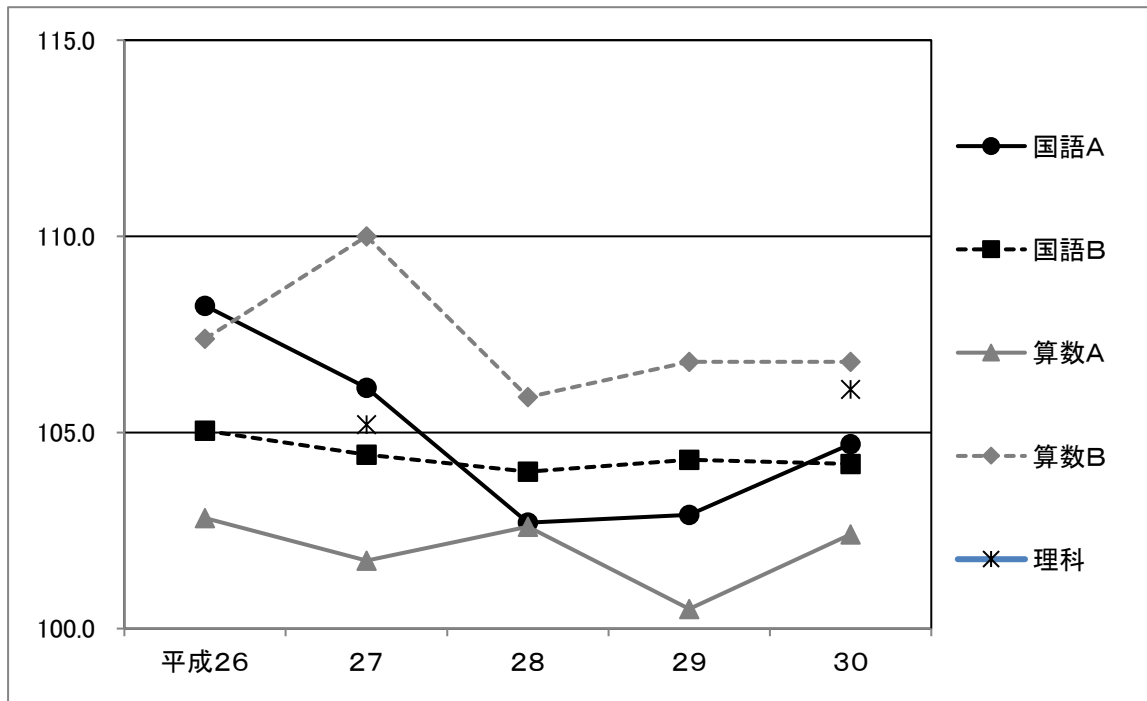
課題 短答式及び記述式において正答率が低く、無解答率が高いことが指摘できます。著しく無解答率が高かった問題は以下の4問です。「化学変化を表したモデル図の修正」、「オームの法則を用いた抵抗値の算出」、「アルミニウムが水温変化に関係していることについての新たな課題設定」、「蒸散と湿度に関する問題解決の知識理解」などです。

また正答率が低かった問題は「風向の観測方法」と「化学実験における条件制御」です。前者は台風周辺の風向と屋内の方位の違いを読み取れず、後者は炎に関して当てる時間以外の炎の大きさ、色、勢い等について回答する生徒が多くいました。

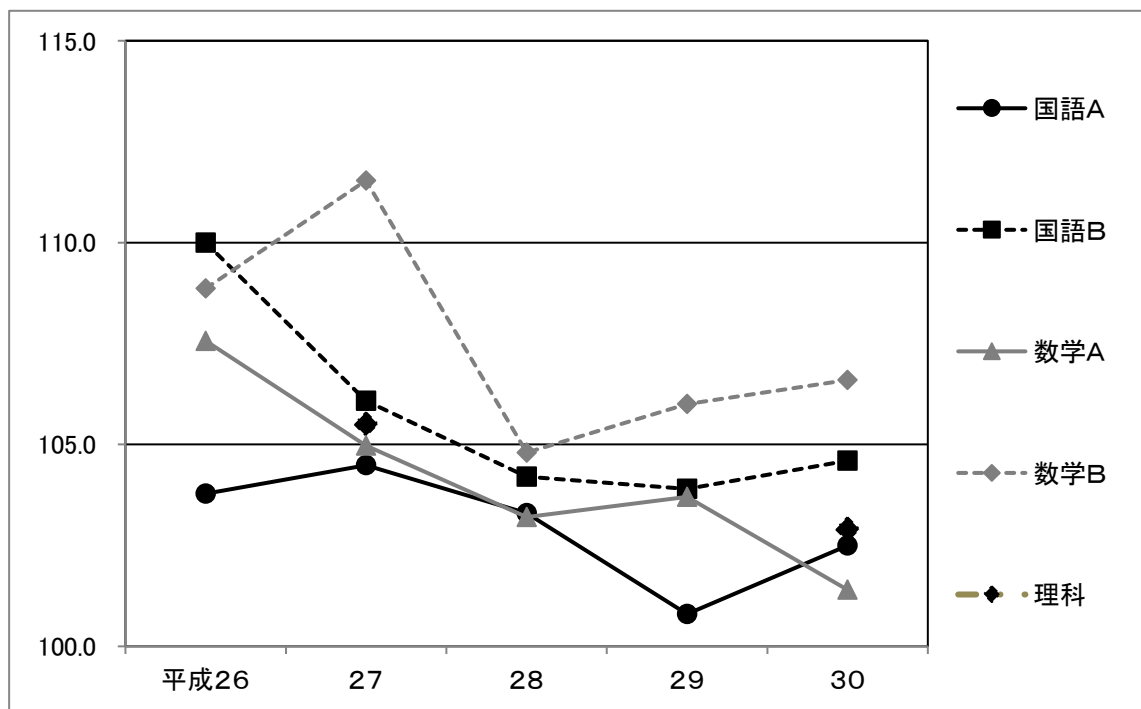
6 5年間の経年変化

(1) 小学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別(国語 A・B, 算数 A・B, 理科)に示しています。



(2) 中学校



7 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 小学校

① 全国値に比べ該当する児童の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・観察や実験を行うことは好き。

[習志野市:90.0% 全国:84.8%]

② 全国値に比べ該当する児童の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている。

[習志野市:62.7% 全国:69.9%]

- ・5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。

[習志野市:68.7% 全国:74.4%]

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。

[習志野市:53.6% 全国:62.7%]

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。

[習志野市:28.7% 全国:38.1%]

- ・算数の勉強が好き。

[習志野市:58.1% 全国:64.0%]

- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。

[習志野市:59.3% 全国:64.4%]

- ・理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか。

(月1回以上, 週1回以上)

[習志野市:82.2% 全国:89.1%]

(2) 中学校

① 全国値に比べ該当する生徒の割合が高い項目(5ポイント以上)

- ・理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか。

(月1回以上, 週1回以上)

[習志野市:95.5% 全国:89.1%]

② 全国値に比べ該当する生徒の割合が低い項目(5ポイント以上)

- ・家で、学校の宿題をしている。

[習志野市:85.2% 全国:91.6%]

- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書を使いながら学習している。

[習志野市:64.5% 全国:71.3%]

- ・1, 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。

[習志野市:56.6% 全国:68.9%]

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。

[習志野市:37.3% 全国:45.8%]

- ・数学の授業の内容はよく分かる。

[習志野市:65.4% 全国:71.0%]

- ・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

[習志野市:64.9% 全国:72.9%]

・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。

[習志野市:65.2% 全国:70.3%]

・理科の勉強は大切だ。

[習志野市:66.9% 全国:76.6%]

・理科の授業の内容はよく分かる。

[習志野市:64.3% 全国:70.0%]

・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。

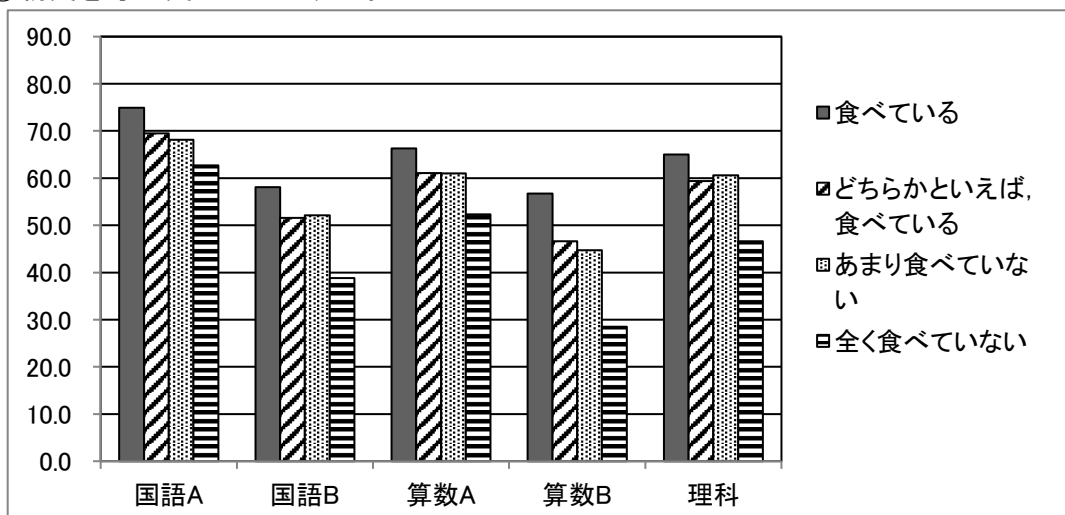
[習志野市:46.8% 全国:53.8%]

8 児童生徒質問紙調査の回答結果と教科に関する調査の正答率との相関関係

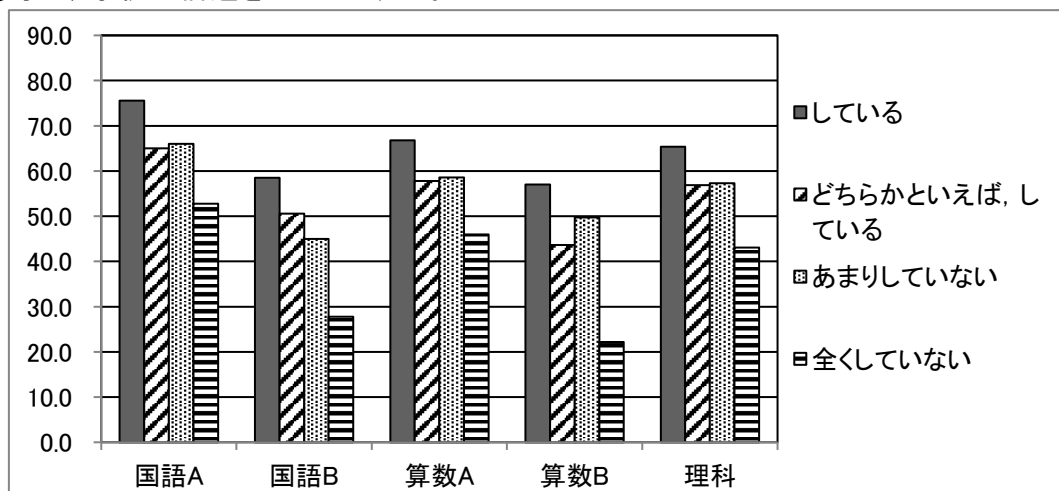
(1) 小学校

※質問事項に対する児童の回答(選択肢)と、教科に関する調査の正答率との関係を棒グラフで示しています。ここでは、肯定的な回答(選択肢)と正答率の高さに大きな相関関係が見られるものを載せています。(単位点)

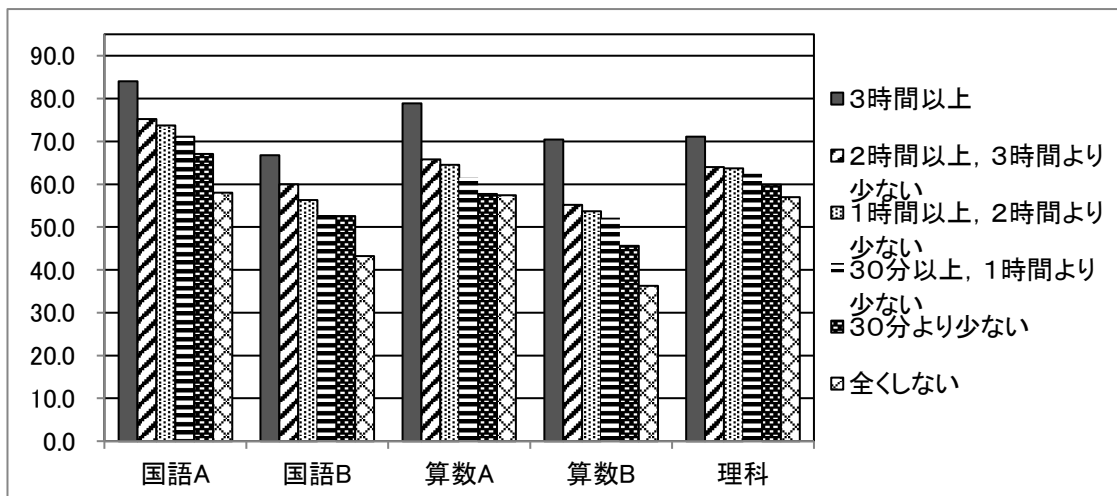
①朝食を毎日食べていますか。



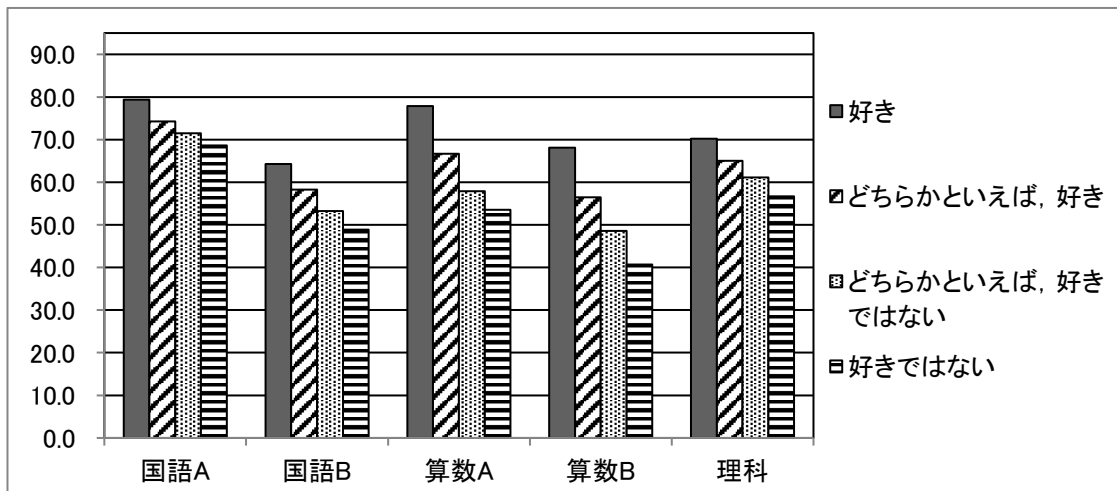
②家で、学校の宿題をしていますか。



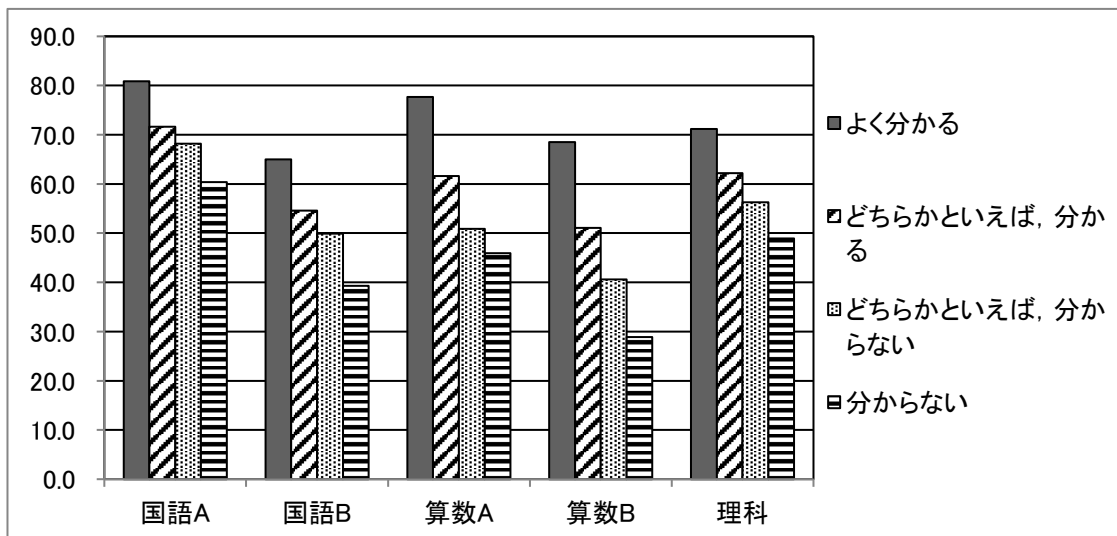
③学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



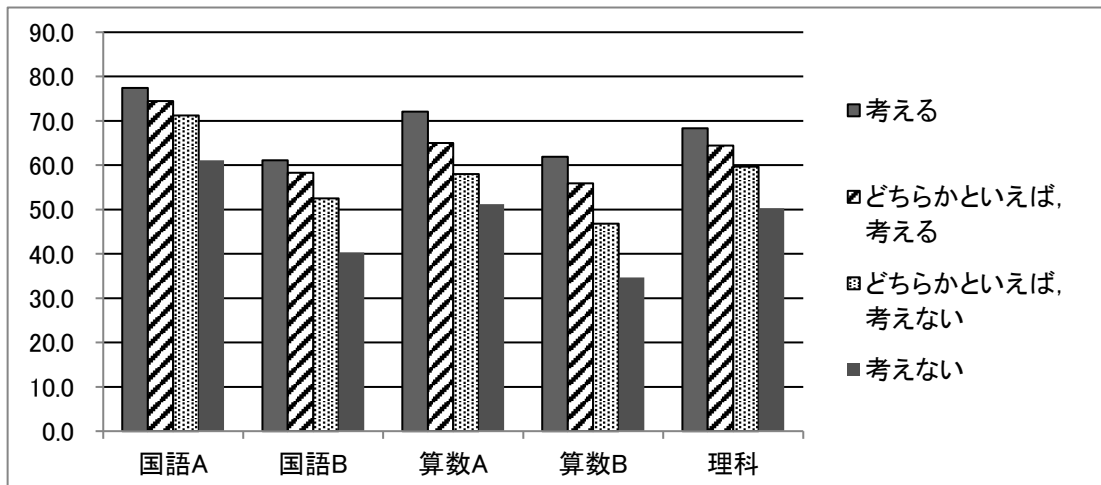
④算数の勉強は好きですか。



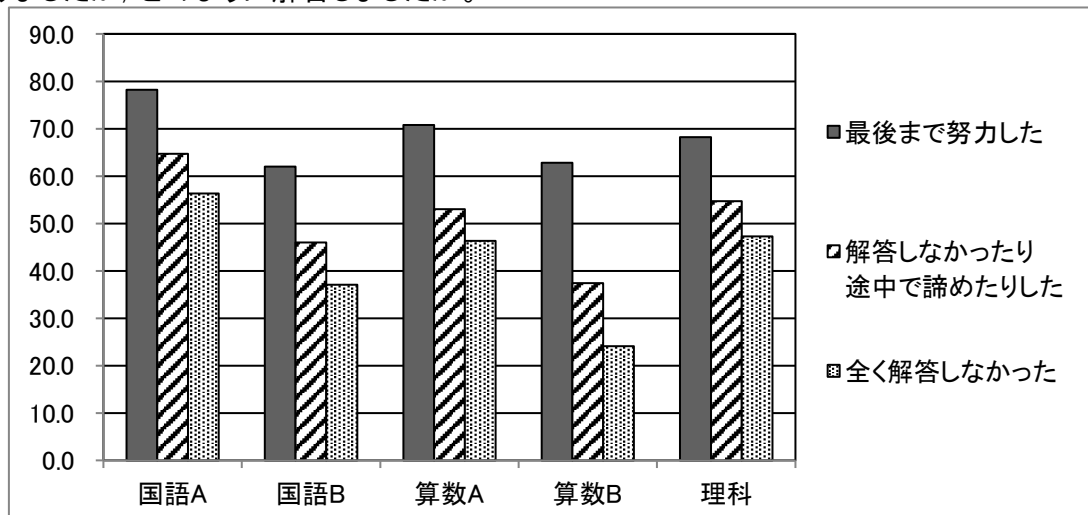
⑤算数の授業の内容はよく分かりますか。



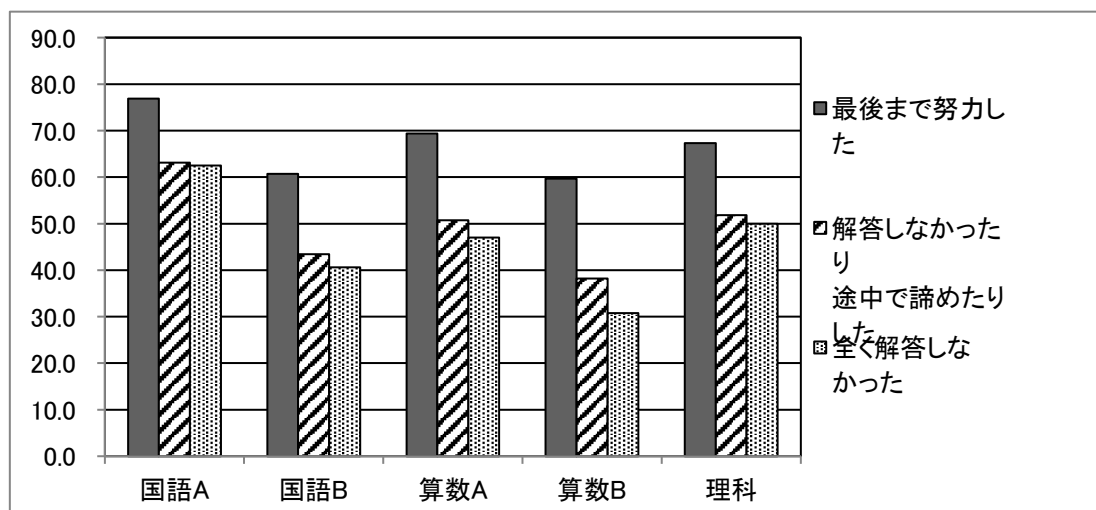
⑥算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。



⑦今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか。

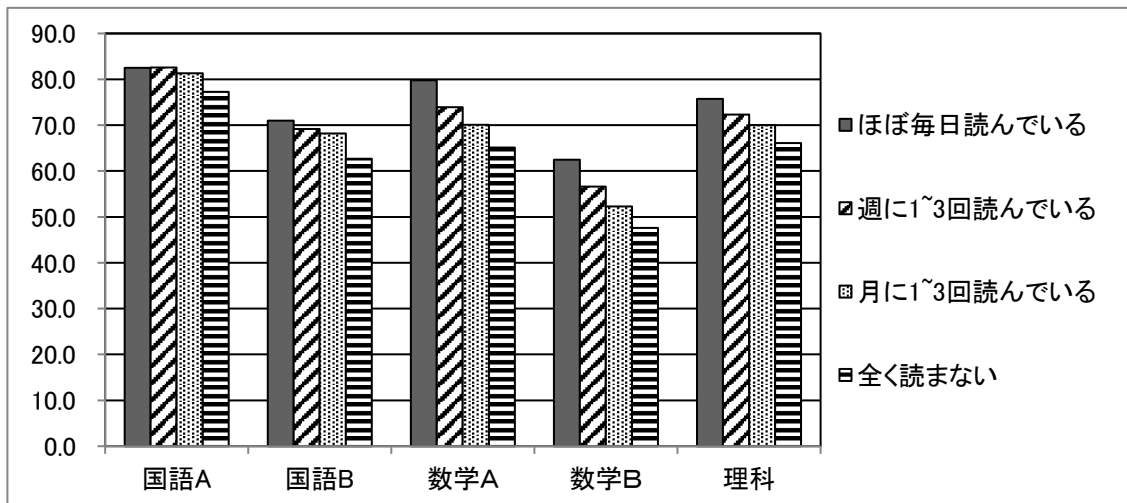


⑧今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

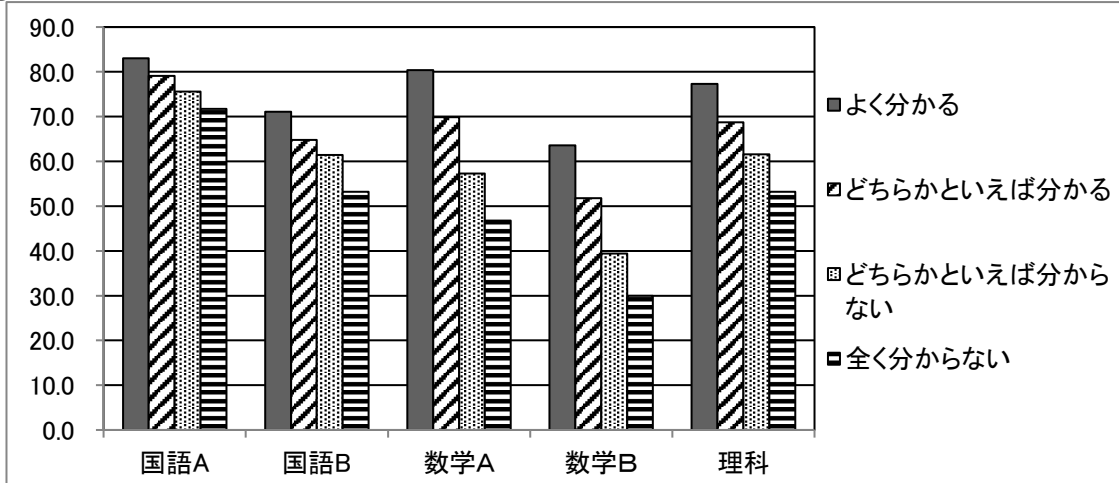


(2) 中学校

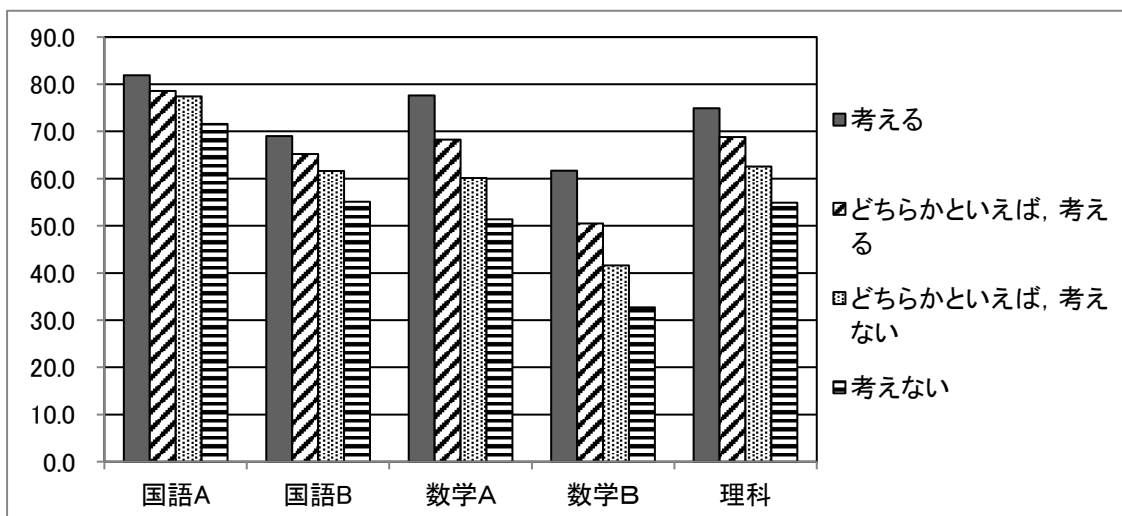
①新聞を読んでいますか。



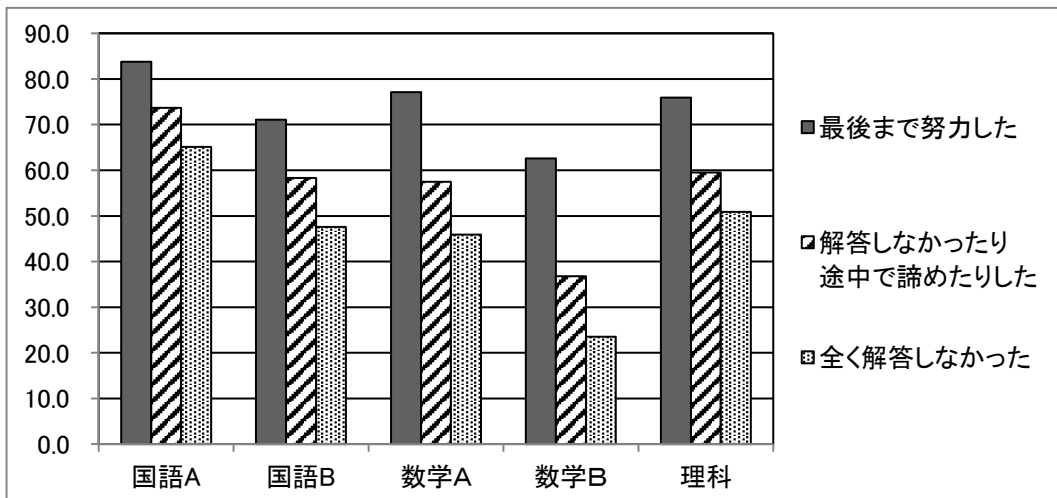
②数学の授業の内容はよく分かりますか。



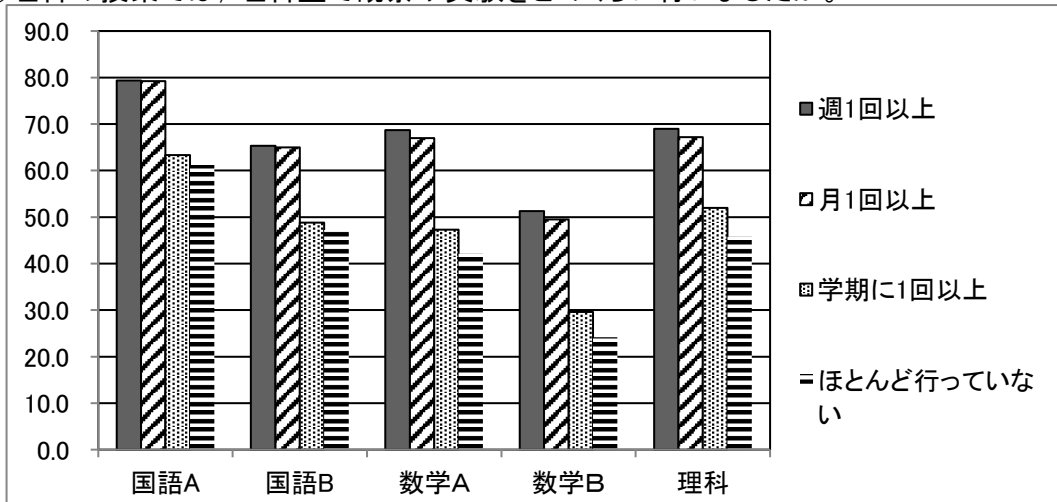
③数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。



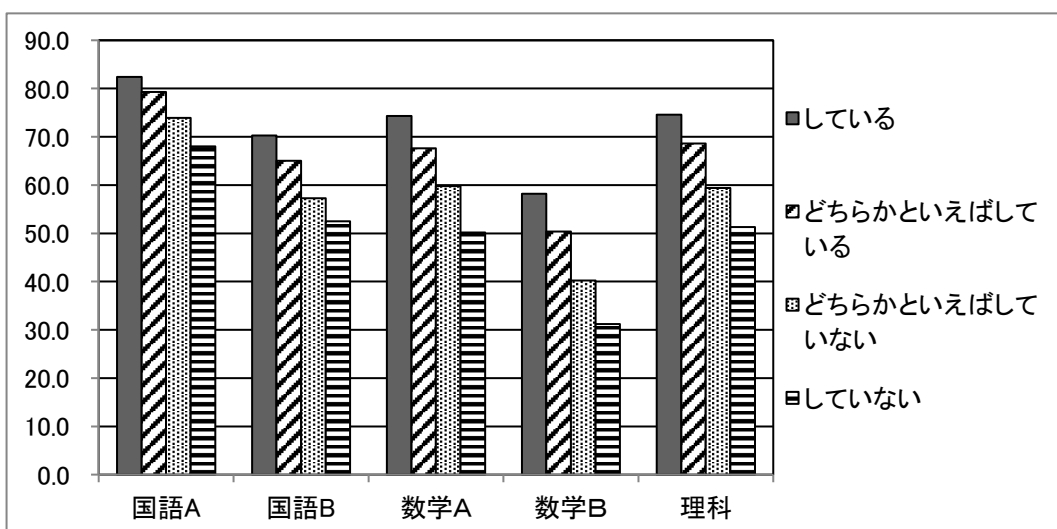
④ 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題に、最後まで解答を書こうと努力しましたか。



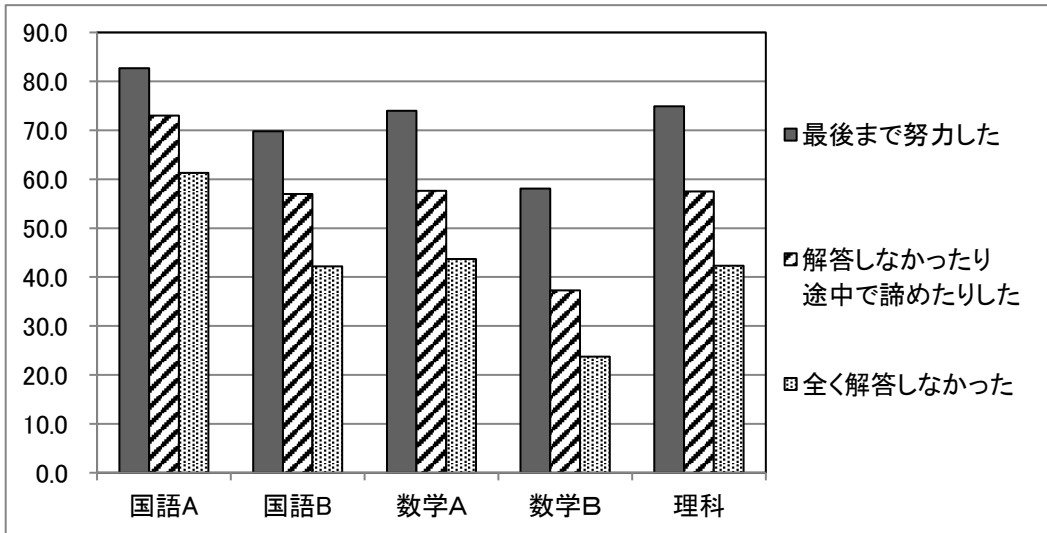
⑤ 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。



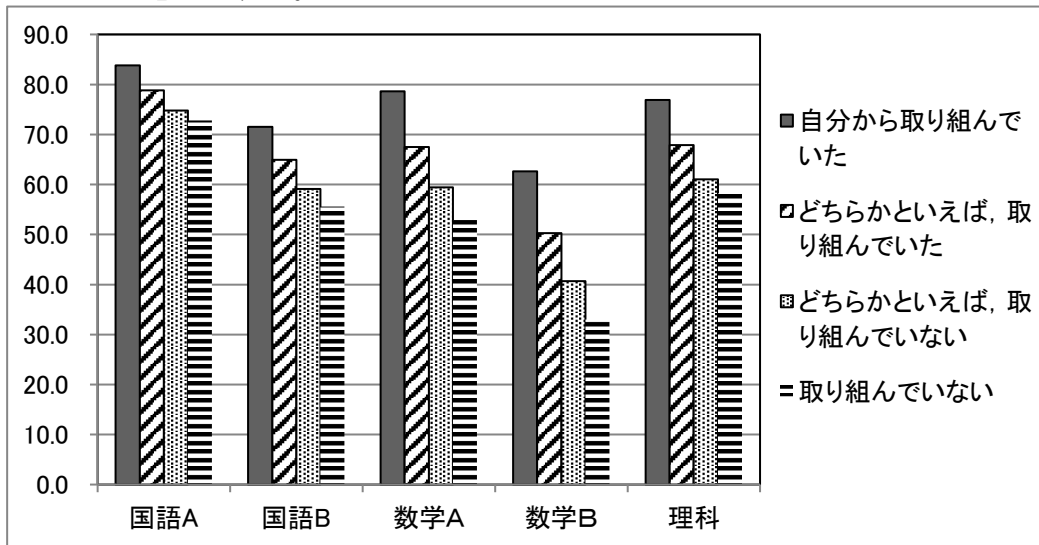
⑥ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。



⑦ 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題で、最後まで解答を書こうと努力しましたか。



⑧ 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



9 調査結果についての考察

(1) 教科に関する調査から

- ①国語では、「知識(A問題)」「活用(B問題)」のどちらも、小学校、中学校ともに全国平均正答率を上回りました。小学校では、話すこと・聞くことの相対値について、昨年よりも伸びていますが、主語と述語の関係や話し手の意図を自分の意見と比べて考える問題では全国値を下回っています。中学校では、昨年全国平均正答率を下回った「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(A問題)」の問題に改善が見られました。慣用句やことわざなど語彙力の向上を図っていく必要があります。
- ②算数・数学では、「知識(A問題)」「活用(B問題)」のどちらも、小学校、中学校ともに全国平均正答率を上回っています。記述式問題(B問題)の正答率が高く、全国との相対値においても大きく上回っています。知識(A問題)をさらに高くするには、定着の場面を設定する必要があると思われます。小学校では、「数と計算」領域が大きく伸びていますが、混み具合の問題で誤答が多く、比の関係の理解について課題があります。中学校では「資料の活用」が昨年よりも伸びましたが、全国平均との差は年々縮まっています。歩いた距離と残りの距離の関係などを表す一次関数の考え方に課題があります。
- ③理科では、小学校、中学校ともに全国平均正答率を上回っています。小学校では、3年前の調査に比べ、「知識」に関する問題や「観察・実験の技能」は大きく伸びましたが、図や文章が複雑になると誤答が増えることから、読解力や思考力が大きく影響していることが伺えます。中学校では、物理や地学では全国を上回っていますが、「化学変化を表したモデル図の修正」、「オームの法則を用いた抵抗値の算出」、「アルミニウムが水温変化に関係していることについての新たな課題設定」、「蒸散と湿度に関する問題解決の知識理解」などの問題では、高い無解答率でした。

(2) 児童生徒質問紙調査から

- ①小学校では、「観察や実験を行うことは好き」という肯定的な回答が全国値より高かったです。日頃の理科の教材研究や指導方法の工夫が児童の興味関心を高めているものと思われる。しかし、「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか」については、全国値よりも低いことから、一層の理科室の利用率の向上を図っていく必要があります。「算数の勉強が好き」については昨年に引き続き下回っています。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」も5.1ポイント下回っています。日常の生活の中でも、さまざまな場面で学習したことが生かせることを伝え、算数への関心を高めていく必要があります。「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている」が全国値を下回っています。教室で学んだことを家庭でも続けられる習慣づけをしていきたいです。「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」が

5. 7ポイント、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」など、地域との関わりについての肯定的な回答が全国値よりも10ポイント程度低いのは例年と同様の傾向です。学校から積極的に地域に関わる活動を通して、地域の行事に参加する意欲を育成する必要があると考えられます。

- ②中学校では、小学校とは反対に「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか」については、全国値より6.4ポイント高かったです。普段から理科室を利用して授業していることが伺えます。しかし、「理科の勉強は大切だ」「理科の授業の内容はよく分かる」については低い値となっています。さらに、「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」など、数学に対しても全国値を下回っています。小学校同様、学習したことが日常生活のどのような場で生かされているのかを伝え、数学・理科への関心を高めていく必要があります。「家で、学校の宿題をしている」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書を使いながら学習している」については、小学校同様低い値を示しています。また、「1, 2, 年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」「今住んでいる地域の行事に参加している」など、地域との関わりについての低さは小学校と同様です。

10 調査結果の今後の活用

- (1)学校は、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等を図るために指導方法の工夫改善に向けて取り組む。多面的な分析を行い、成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら教育の改善に取り組む。
- (2)教育委員会は、学校における取組等に対して必要な支援等を行う。
- ・習志野市学力向上推進委員会を設置し、結果分析を行い、本市児童生徒の学力の傾向や変容を把握し、指導の成果や課題を明らかにする。その上で、市立各小・中学校の学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業を行う。
 - ・学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業として、分析結果をまとめた「解説編」と授業改善のための「資料編」を作成し、各学校に配布する。
 - ・学力向上に係る分析や授業改善の取り組みを支援する事業について教務主任研修、研究主任研修等において、必要に応じて周知する。